

漢方  
小児科 婦人科  
内科 産科  
浮田医院  
だより



第 30 号  
発行所： 内科 小児科 漢方 浮田医院  
産科 婦人科  
〒520-1214 滋賀県高島郡安曇川町末広3丁目28  
TEL 0740-32-3751  
FAX 0740-32-3795  
http://www.zu.biglobe.ne.jp/~ukita/  
e-mail: kanpou@mui.biglobe.ne.jp  
発行日：平成13年10月5日(金)  
発行者：浮田 徹也



# 漢方薬のよさ(30)

## 肺



紅葉の季節が近づきました。春の桜と秋の紅葉がなくなれば、私たち日本人は、さぞ、淋しくて耐えられないと思います。今年には、どんな紅葉に会えるか楽しみです。安曇川、比良山、京都・・・など、どこでも紅葉はありますが、それぞれの持ち味は違います。さあ、私を見て、と語りかけてくる紅葉を見つげにかけたいと思っています。

さて、八月十九日に公開した**当院のホームページ**は好評で、たくさんさんのメールが送られて来ています。特に、『こんなことで悩んでいませんか?』に人気が集中しています。今後も、少しずつ充実させ、症例や質問を増やしていく予定です。今月は、**肺**についてお話しします。漢方の肺は、いわゆる肺、気道、鼻、皮膚を含んだ概念で、肺炎、気管支炎、鼻炎、蕁麻疹、



ひとひらのもみじ

浮腫・などに関係があります。肺は、消化吸収された栄養素の中の水分を全身に運んだり、皮膚から蒸発させ、私たちの体の**水分を調節**しています。また、空気を体に取り入れ、吸収された栄養素と協力して、**氣**と言う

エネルギーを生み出します。この肺を養う食べ物、辛味食品、ショウウガ、コショウ、トウガラシなど、白色系統の食品、白ねぎ、大根、ナシ、ニンニクなどです。この秋は、肺に気をつけ、冬、風邪を引かない体力を養って欲しいと思います。

では、実例を挙げましょう。二九歳女性、子供の頃は、アトピー性皮膚炎と気管支喘息、アレルギー性鼻炎で悩みました。最近、疲れたり、天気が悪くなると、喘息がでるようになります(一週間に二〜三回)。顔色は青白く、眼窩は窪み、やや薄黒く、両頬は少し赤く染まり、目は大きく開いて、ギョロギョロしていました。お腹は柔らかく、左右の肋骨下部に抵抗を認め、脈は、無力で、大きく触れました。舌は乾き淡紅色、薄白苔があり、両側に歯の形が見られました。雨が降っていたためか、ヒューヒュー、ゼーゼーと呼吸の度に音がして、苦しそうでした。そこで、胃に穏やかな華蓋散と言う漢方薬を処方しました。一ヶ月後、呼吸音が穏やかになっていました。三ヶ月後、発作も軽く、回数も二週間に一〜二回に





減りましたので、発作の起こりそうな時のみ、華蓋散を、平生は、補中益気湯を飲んでもらうことにしました。三年後、二、三ヶ月に一度、咽のつまりを感じるそうですが、発作はなくなりました。現在、補中益気湯を続けておられます。

五五歳女性、四七歳で閉経、腰痛、肩こり、疲労倦怠感などを訴えて来られました。顔色はすぐれず、お腹は軟弱、脈は細く弱く、舌は暗紅色、乾いて苔はありませんでした。早速、骨量を測定すると、若年成人平均値の七二%と低下していました。そこで、カルシウムを中心に食事指導をし、疲労しない程度の散歩を薦め、十全大補湯を処方しました。骨量は、六ヶ月後、七二%、二年後、七三%とほぼ同じ、三年後、七五%とやや改善して行きました。今後同じ漢方を続ける予定です。

七五歳女性、最近一〇年、一ヶ月に一度、膀胱炎にかかり、その度、抗生物質を飲んでいそうです。尿検査で砂状の結晶が多数見られました。顔色はやや青く、お腹は柔らかく、お臍の上下で動悸、左右に軽い抵抗を認めました。手や足は乾燥し、冬は唇も割れると



【院長】

言われました。そこで、猪苓湯合四物湯を処方し、疲れ、冷え、食べ過ぎに注意するように言いました。一ヶ月後、少しムズムズする日もあったようですが、「どうにか過ごせました。」と喜んでおられました。六ヶ月後、「もう大丈夫です。」といわれましたので、漢方薬を半分減らしました。八ヶ月後、「膀胱炎のことも忘れていました。」とのことでしたから、廃薬しました。

とても過ごしやすい季節ですが、空気がどんどん乾いてきます。今、肺(皮膚)をいたわってあげれば、これから来る冬を元気に過ごせます。体やこころの発するサインを見逃さないように気をつけて下さい。

一〇月は、日本東洋医学会の関西支部総会が滋賀県で初めて開催されます。準備委員長として多くの方々とお会いし、多数の知識を得てきたいと思えます。次回は、腎についてお話しします。



### 気管支喘息

体質、精神的ストレスが大きく影響し、家族、友人、学校、仕事、環境・・・に左右されます。ご本人の体質を改善し、心を大きく開くと共に、周囲の方の暖かいまなざしがが必要です。漢方薬は、体と心を楽にするのに、きっとお役に立つことでしょう。



### 骨粗鬆症

骨量は、成長期のカルシウムや蛋白質の摂り方や運動の仕方に左右されます(特に、12~20歳)。  
女性は閉経期以後(およそ50歳以後)、急速に減少、男性は50歳代を過ぎる頃から、徐々に減少します。食事、運動、日光浴が効果的です。治療は、漢方薬で体の調子を調えながら、必要に応じて、ビスフォスフォネート製剤、ビタミンK2、カルシウム製剤、活性型ビタミンD3、女性ホルモン(HRT)、カルシトニン製剤を併用します。



### 慢性膀胱炎

体質的に虚弱(胃腸虚弱や貧血)、冷え性、瘀血(血のめぐりが悪い)・・・の方は、慢性的に残尿感、排尿痛、頻尿などの膀胱炎症状が常に残ることがあります。食事や生活習慣に気をつけ、漢方薬をご利用ください。



### 当院の漢方治療



#### 剤型について

- ・ エキス漢方薬：錠剤タイプの漢方薬と顆粒タイプの漢方薬があります。
- ・ 漢方煎じ薬：良質の生薬を組み合わせた漢方薬。40～50分煮て作ります。

当院の顆粒タイプの漢方薬は、胃になじみやすい反面、湿気に弱いので、乾燥剤の入った容器に入れ、しっかり蓋をして下さい。それでも、湿る場合、冷蔵庫で保管して下さい。漢方薬が湿りやすい場合、当院の漢方薬専用容器(無料)をご利用下さい。

#### 適応症について

すべての疾患に適応できます。便秘、頭痛、肩こり、腰痛、食欲不振、疲れ、冷え、むくみ、痛み、痺れ、動悸、めまい、ほてり、排尿障害、発熱、・・・などすべての症状に応用します。

#### ・漢方薬のよく効く疾患

アトピー性皮膚炎、更年期障害、肩こり、腰痛、便秘、子宮内膜症、子宮筋腫、生理痛、冷え症、低血圧、過敏性大腸、慢性肝炎、慢性疲労、めまい、頭痛、下痢、風邪、肥満、夏ばて、動悸、慢性膀胱炎、血尿、慢性中耳炎、慢性副鼻腔炎、慢性扁桃炎、口内炎、口腔乾燥、痛風、夏まけ、慢性胃炎、慢性膵臓炎、慢性胆嚢炎、胆石、胃十二指腸潰瘍、前立腺肥大、クーラー病、虚弱児、蕁麻疹、接触性皮膚炎、にきび、帯状疱疹後神経痛、神経痛、膝関節症、下肢静脈瘤、上下肢浮腫、不妊症、切迫流・早産、妊娠中毒症、産後回復不良、乳腺炎、乳汁分泌不良、乳腺症・・・

#### ・漢方薬と西洋薬を併用することの多い疾患

高血圧、アレルギー性鼻炎、糖尿病、骨粗鬆症、痔、肝硬変、喘息、腎炎、甲状腺疾患、高脂血症、高コレステロール血症、不眠症、自律神経失調症、うつ病、夜尿症、慢性関節リウマチ、脳梗塞後遺症、脳出血後遺症、抗がん剤使用後倦怠感、抗がん剤使用時副作用・・・・・・・・

#### エキス漢方薬と漢方煎じ薬について

- ・ 軽症・中程度の病気：漢方製剤(顆粒あるいは錠剤)を組み合わせて治療。
- ・ 重症の病気、エキス漢方薬が無効：漢方煎じ薬で治療。

女性の方、男性の方、子供の方、ご相談下さい(高齢の方もどうぞ)。

問診、望診(舌診)、聞診、切診(腹診と脈診)の東洋医学的診断法(四診)や検査(超音波、血液、便、尿、心電図、骨量測定・・・・)などを利用して、漢方薬を決めます。

#### 錠剤漢方薬

錠剤タイプの漢方薬も多数そろっています。お気軽にお申し出下さい。

#### スーパーライザー (神経照射)

赤い温かい光(近赤外線)で血行をよくし、アトピー性皮膚炎、花粉症、ストレス、肩こり、腰痛、五十肩、膝の痛み、ムチウチ、捻挫[ねんざ]・・・などの治療に利用しています。

#### 皮内針

針の長さは1～2mmで、刺す時の痛みはありません。肩こり、腰痛、神経痛、筋肉痛、頭痛・・・の治療に利用します。

#### 外用薬・点眼薬・点鼻薬

外用薬(漢方薬、アトピー、痒み、非ステロイド、ステロイド、抗生物質、抗真菌、保湿、にきび)、点眼薬(抗菌剤、抗生物質、抗アレルギー剤)、点鼻薬(抗アレルギー剤)、喘息吸入薬、口腔用(口内炎、抗真菌、うがい)、湿布薬(冷、温)、痔(軟膏、座薬)・・・。

#### 新しいホームページ(パソコン)

漢方のページ、産婦人科のページ、当院の案内、当院への交通、周辺の観光地などを掲載。ホームページの内容は、待合でも閲覧できます。

#### 処置診

処置、検査、点滴、針、スーパーライザーの場合、受診者名簿の処置の欄に、氏名を書き、診察券を入れてください。

#### 骨量測定

1分で測定(極少量のX線吸収を利用)。結果は、直ぐにお渡します。骨破壊度の検査(尿)も実施しています。

#### 保険証変更の方

保険証変更が決まった方、保険証の変更をされた方、できるだけ早く、受付に連絡して下さい。保険が使えなくなります。

#### 駐車場

- ・ 北一駐車場(40台)(日曜、祝祭日：終日閉鎖)
- 月・水・金：午前8：30～夕方診の終了
- 火・木・土：午前8：30～午前診の終了
- ・ 東・南駐車場(11台)(終日駐車可能)

外来診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
午前9:00～正午 (月～土)	○	妊婦外来	○	○	妊婦外来	○	-
午後5:30～午後7:30 (月、水、金)	○	-	○	-	○	-	-

- ◆漢方外来(月～土)：内科・小児科・皮膚科・産婦人科・整形外科・耳鼻科・眼科・・・など全科
- ◆更年期外来(月・夕方)：更年期の方・思春期の方(女性・男性、どなたでもお越しください)
- ◆不妊外来(水・夕方)：赤ちゃんの欲しい方(ご夫婦でもお越しになれます)
- ◆妊婦外来(火、金)：妊婦健診・妊娠中の方(火)午前11:00～正午は産後健診、赤ちゃん健診
- ◆助産婦相談(金)：妊婦相談、乳房相談、育児相談 午前8:40～午後12:30(日程は掲示)

前期と中期－母親教室

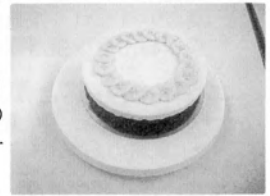
日時：10月16日、12月11日(火)  
 対象：妊娠7ヶ月までの方(定員5名)(無料)  
 場所：当院1階 申込方法：申込ノートでご予約して下さい。  
 皆様方のご希望に答えて、後期妊婦教室の回数は、できるだけ2回に致します。ティータイムもご期待下さい。

後期－母親教室

日時：10月23日、11月6日、20日、12月4日、18日(火)  
 対象：妊娠8～10ヶ月の方(定員5名)(無料)  
 お気軽にご参加下さい。ご主人の参加も歓迎します。

母親教室ティータイム

“パン・ド・カンパーニュ”(田舎パン)は、バストン型で、ライ麦の香りと皮の香ばしさが素敵です。“バナヌ・ショコラ”(ケーキ)は、ココアのビスキュイとバナナのムースからできています。ティータイムに、最適の一品をどうぞ。



妊娠中のむくみ

朝起きた時、手が握りにくい、顔が腫れぼったい、まぶたが重い、ピクピクする、夕方、足がはれている・・・、1週間で500g以上体重が増えた・・・などの症状があれば、危険信号です。過食(塩分、糖分)に注意して下さい。あまり動き過ぎても、むくみます。食事や生活に気をつけても、むくみが取れない時、漢方薬が役に立つことがあります。



分娩予約

当院で分娩を予定されておられる方、出来るだけ早く、受付で予約してください。ご予約には、**分娩予約カード**と**予約金5万円**が必要です。予約された方には、**母と子のてびき**をお渡します。

立合い分娩

あらかじめ、**受付**にお申し込み下さい。

大切な知識

早産マーカー(12号)、NST(13号)、子宮頸管細菌培養(14号)、赤ちゃんの予想体重(15号)、胎盤機能検査(16号)、分娩予定日(17号)、骨盤位(18号)、食事指導(19号)、妊娠中の貧血(20号)、骨粗鬆症(21号)、乳房管理(22号)、切迫早産と膀胱炎(23号)、切迫流産(24号)、妊娠中の脂質代謝(25号)、お産後の子宮(26号)、妊娠とタバコ(27号)、妊娠中の尿量(28号)、妊娠中の血圧(29号)

助産婦相談

妊娠中、分娩、母乳、育児の相談と健診の説明。お一人およそ、15～20分で対応します(無料)。日時：**毎週金曜日** 午前8:40～午後12:30。

赤ちゃん健診

1ヶ月、2ヶ月、3ヶ月健診をしています。日時：**毎週火曜日** 午前11:00～正午(有料)。

入院食

心のこもった**手作り料理**です。素材、味付け、メニュー・・・など、絶えず工夫し研究しています。

第13回妊婦のための料理教室

日付：11月8日(木) 時間：午前10時～午後2時。  
 対象：妊婦の方(無料) 献立：ミニフランス料理。